読み方のポイント　漢文を総合的に読む

一　**三つの文**　**白文**（漢字だけ）・**訓読文**（返り点・送り仮名・句読点をつけたもの）・**書き下し文**（日本語の順に、漢字かなまじりで書き直したもの）。

二　**返り点**　**レ点**＝すぐ上の一字に返る。**一・二点**＝二字以上はなれた上の字に返る。**レ点と一・二点が続く**ときは、一点の字まで読んで二点の字に返り、そのすぐ上にレ点があれば、さらに一字上に返る。

三　**書き下し文のきまり**　送り仮名はひらがなにする（歴史的仮名遣いのまま）。「不（ず）」「之（の）」など、日本語の助詞・助動詞にあたる字もひらがなにする。**送り仮名のない「而」「矣」「於」などの置き字は書かない。**

四　**会話の範囲**　「**曰はく**（いはく＝言うことには）」が会話の始まりの目印。会話は「　」でくくられ、「と」で終わる。だれのことばかを必ず確かめる。

五　**主語と指示語**　省かれた主語や、「之（これ）」が指すものを、前の文から補って読む。

六　**たとえ話と故事成語**　登場する人や動物が、**だれ（何）のたとえなのか**を考える。故事成語の意味は、話の結末から考える。

例題　（1）・（2）の訓読文を、書き下し文に直しなさい。　**（1）不知其名ヲ　（2）登山而望海ヲ**

レ 二 一　レ　レ

解き方　（1）一点の「名」まで読んで二点の「知」に返り、さらにレ点で「不」に返る。読む順は「其→名→知→不」。「不」は「ず」とひらがなで書く。（2）レ点で「山」から「登」に返り、「海」から「望」に返る。送り仮名のない「而」は置き字なので、書き下し文には書かない。

答え　（1）其の名を知らず　（2）山に登りて海を望む

（3）次の書き下し文（『韓非子』「矛盾」の初め）から、会話の部分を抜き出しなさい。（4）「之」は何を指しているか。

楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

解き方　（3）「曰はく」のあとの「　」から、「と」の前まで。（4）すぐあとの会話で「吾が盾」をほめているので、ほめた「之」は盾。指示語は前後から確かめる。

答え　（3）吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。（4）盾

宿題　次の書き下し文は、『戦国策』にある話である。読んで、あとの問いに答えなさい。

楚に祠る者有り。其の舎人に巵酒を賜ふ。舎人相謂ひて曰はく、「数人之を飲めば足らず、一人之を飲めば余り有り。請ふ地に画きて蛇を為り、先に成る者酒を飲まん。」と。一人の蛇先に成る。酒を引きて且に之を飲まんとす。乃ち左手もて巵を持し、右手もて蛇を画きて曰はく、1「吾能く之が足を為る。」と。未だ成らざるに、一人の蛇成る。其の巵を2奪ひて曰はく、3「蛇固より足無し。子安くんぞ能く之が足を為らん。」と。遂に其の酒を飲む。4蛇の足を為る者、終に其の酒を亡ふ。

（『戦国策』による）

（注）楚＝昔の中国の国の名。　祠る者＝神をまつる役目の人。　舎人＝家来。　巵酒＝大きなさかずきに入った酒。　賜ふ＝おあたえになる。　請ふ＝どうか～しよう。　為り＝かき上げ。　且に之を飲まんとす＝今にもそれを飲もうとした。　持し＝持ち。　能く＝～できる。　固より＝もともと。　子＝あなた。　安くんぞ能く～為らん＝どうして～かけようか、いや、かけない。　亡ふ＝なくす。

問一　2奪ひてを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

問二　4蛇の足を為る者は、白文では「為蛇足者」となる。書き下し文の読み方になるように返り点をつけたものとして正しいものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　為蛇足者　　イ　為蛇足者
ウ　為蛇足者　　エ　為蛇足者

問三　1・3の会話は、それぞれだれのことばか。最も適切な組み合わせを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　1　祠る者　　3　先に蛇をかき上げた舎人
イ　1　先に蛇をかき上げた舎人　　3　祠る者
ウ　1　あとから蛇をかき上げた舎人　　3　先に蛇をかき上げた舎人
エ　1　先に蛇をかき上げた舎人　　3　あとから蛇をかき上げた舎人

問四　先に蛇をかき上げた舎人が酒を飲めなかった理由と、この話から生まれた故事成語「蛇足」の意味を、次のようにまとめた。［　　］に入ることばを、理由と意味の両方がわかるように、「足」「よけい」という二つのことばを使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。

「蛇足」は、［　　］という意味である。

解答（答えと短い解き方）

漢文の返り点・書き下し 基礎① 書き下し文と故事「蛇足」

宿題

問一 うばいて

語の頭以外の「ひ」は「い」に直す。「うばひて」→「うばいて」。

問二 ウ

読む順は「蛇→足→為→者」。「為」は二字下の「足」を読んでから返るので、一・二点をつける。

問三 エ

1は先に蛇をかき上げた舎人、3はあとから蛇をかき上げてさかずきを奪った舎人のことば。

問四 （例）もともとない足までかいている間に負けた話から、よけいなつけ足し

もともとない足をかき足している間に、別の舎人に酒を奪われた。「蛇足」＝よけいなつけ足し。